

平成 29 年度 日本大学東北高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の目的及び使命に基づき、「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」を教育方針（校訓）とし、大学との一貫教育を推進しつつ、生徒の多様なニーズに応えることのできる総合力を持つ高校としての発展を目指す。

【本校の特長及び課題】

日本大学工学部に併設する工業高校として創設された。その後、社会や時代の要請に従い改革を進め、現在は日本大学付属の進学校として地域社会に定着、評価されている。

【特長】

1. 教育方針に基づき、明るく健康的で、思いやりがあり、創造性豊かな努力する人間を育てる。
2. 日本大学進学を第一として、地域性を考慮しつつ、生徒の多様な進路目標の実現を図る。
3. 基本的な生活習慣を確立し、自主自立的な行動ができるよう指導する。
4. 専任カウンセラー及びインテーカー資格を持つ教員が常時、増加する心の問題を抱えた生徒や保護者の相談に当たる。
5. 人との関わりを大切にし、感動する心を育てるため、その源となる生徒会活動を活発にする。

【課題】

1. 急激な少子化の中での安定的な入学生の確保
2. 生徒の学習意欲の向上と家庭学習の充実
3. 教育環境の整備と充実

平成 29 年度の取組結果

【概況】

「学校自己点検・評価」等の評価結果を踏まえ、校務分掌ごとに取り組んだ結果、多くの面で改善がなされた。教科指導においても「生徒による授業評価アンケート」の結果や「教員個人による自己点検・評価」により改善が見られた。評価の低い項目については、平成 30 年度においても改善の方策を検討していく。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による授業評価結果に基づく授業改善	授業評価結果について、各教科会で検討し、改善の取り組みを行うとともに、年 3 回の研究・公開授業を実施することにより、教育力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を目指している。各教科とも十分に準備・工夫をして着実に授業力の向上につなげてきている。また、ICT（情報通信技術）を利用した授業の評価が高いため、さらなる活用を検討している。	B
生徒が主体的に学習に取り組める環境の充実	I コース及び I コースの体育クラスで、学業と部活動の両立ができていない生徒が多いため、学年集会や体育クラス集会を通して、生徒及び部活動顧問の意識改革を図った。また、スコラ手帳（学習計画手帳）や学習活動調査票を有効活用し、家庭学習を含めた自己管理を徹底し、主体的な生活習慣の確立を図った。自学室の整備、シラバスの改善を行い、自主学習の環境整備の充実を図った。	B
確かな学力の定着及び生きる力の育成に向けた取組	基礎学力到達度テストに向けて、授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等への対応を充実させ、各部署との連携を図り生徒の学力向上を図った。また、総合学習の時間を活用し、国際的視野の育成、コミュニケーション能力の養成を行うとともに、生徒の主体的な行動力の成長を目指した指導を行った。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	いじめの未然防止対策として、年3回（1学期末・2学期末・年度末）実施していた、いじめに関するアンケートの内容の改善や実施方法等を改めた。また、いろいろな相談に関して「教育相談委員会」を定期開催し、問題発生時には、早期に対応するなどの取り組みは評価できたが、多様化する内容に関しての教員のスキル向上が課題である。	B
現状と生徒に合わせた指導	多様化する生徒や問題行動等に対して、例年に比べ特別指導件数は激減した。その要因として、教育相談室（スクールカウンセラー）との連携（週1回の合同会議）や教育相談委員会（生徒理解・いじめ対策）の充実が挙げられる。	B
今後の学校生活への配慮	多様化する生徒や保護者の理解及び対応方法について教職員のスキルアップが今後ますます重要となる。 生徒に関しては、スマートフォンの使用問題（依存要素が見られる生徒の増加）、SNS対策（今年度導入した外部業者との連携）等が重要となる。また、交通事故件数は減少したが、他校に比べ多い現状から、さらなる取組みが必要である。 自主創造・忠恕の心等の育成を目指し、自己有用感・自己肯定感を育む取り組みを今後も継続的に進めていく。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒会活動の活性化	生徒会執行部の9名を中心に、アカシヤ祭や予餞会などの学校行事が行われており、生徒も積極的に参加している。また、生徒会執行部独自の活動として、「あいさつ運動」や「目安箱の設置」、「生徒会新聞の発行」など、学校を活性化する取り組みを自主的に行うことができた。 部活動は、本部委員会4、体育委員会18、文化委員会6、愛好会3の計31団体で組織されている。この部活動数は、他の県立高校や付属高校と比較しても多く、受験生へのアピールポイントにもなっている。5月1日現在、880名の生徒が部活動に所属しており、加入率は65.8%である。また、全国大会にも多くの部活動が出場しており、全国高等学校体育大会（インターハイ）には、8つの部活動が出場している。	B
生徒会活動や部活動を行う上での施設・設備の充実	地域の周辺校と比較すると非常に恵まれた施設・設備があるが、さらなる充実を図る必要があった。しかし、生徒数の減少に伴い、生徒会費の収支が大幅に悪化したため、各部活動に対する物品購入費を削減せざるを得なかった。また、2年後の新校舎完成に向け、施設・設備の新設や増設は抑制されており、充実を図ることはできなかった。	C
部活動等、課外活動の活発化と指導体制の改善	現在、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁）」を参考に、部活動の在り方の見直し案を作成し、管理職や関係各部署と調整を行っている。平成29年度中に見直し案を提示し、平成30年度に「部活動在り方の見直し」を行う予定である。この見直しを通して、適切な指導体制の構築を行う。	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学への進学率について、平成 28 年度 35.6%（進学実績）から平成 29 年度 44.5%（1月 31 日現在）と飛躍的に伸ばすことができた。日本大学進学の意味についての生徒・教員全体での再確認と、それに伴う校内の大学出願日程の見直しの成果であろう。新出願日程の概要として、日本大学の各付属校推薦のセレクション後に、指定校推薦を含めた他私立大学への出願をすることとした。この日程によって、日本大学に進学できない生徒が他大学進学に切り替えるというコンセプトが確立した。しかし、基礎学力選抜方式を最重要視するという状況は確立できていないため、次年度も継続して改善を図る。	B
進路情報収集のための施設・設備の充実	生徒・教員が進路情報を収集しやすいように、各学年の教室前の廊下等に進路情報を掲示するスペースを新設した。また、「開かれた進路指導部」をコンセプトに、入室しやすい進路指導室になるよう企画運営し、生徒の主体的進路探求を促した。次年度は I C T 機器を活用し、さらに、生徒のニーズに応じていきたい。	B
キャリア教育等、生徒の体験的活動を積極的に取り入れる	医療系職業体験の周知を徹底した。また、1 学年の進路ガイダンスに、アクティブ・ラーニング型ガイダンスとしてグループワークを取り入れた。しかし、生徒の主体性を伸長するまでには至らなかったため、次年度、更に改善を図る。	C

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育相談体制の充実	本校専属のカウンセラーがそれぞれの生徒の状況に応じてきめ細かい指導を行っている。また、生徒相談室と担任・学年会・生活指導部と連携が円滑に行われており、複数教員による生徒のサポート体制が達成されている。	A
性に対する指導	6 月 30 日に、1 年生対象に外部講師による「性についての講演会」、7 月 20 日に、2 年生男子を対象に本校教諭による「性に対する講話」を行った。大変分かりやすく生徒達が興味を持てるような構成になっており、性についての正しい知識を身に付けさせるとともに、異性関係・交友関係の在り方や命の大切さについて考えさせることができた。	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室利用の推進	4 月に、各クラスに学級文庫（書籍約 30 冊）を設置した。管理は図書委員が責任を持って行ったが、教室での生徒たちの読書に十分に結びついているか、さらに、工夫が必要である。朝の読書の実施など、学年会との連携も必要である。 購入図書の希望を、学年会まで広げたため、その時々に必要な書籍を購入することができたが、購入した本を学年ごとに置くスペースが必要と考えられる。新校舎の廊下に本を置く場所を希望したが、それが実現すると、生徒が生活するスペースに本棚があり、すぐに手に取ることができるという環境が整備される。 生徒への計画的な読書指導について、4 月に図書館利用案内のクラス配布と渡り廊下への掲示を行った。また、2 月には図書委員の生徒が中心になって作成した「図書便り」を発行した。来年度も計画的な読書指導の必要がある。 日本大学附属高等学校等文芸コンクールに合わせて、国語科で校内文芸コンクール	B

	を実施している。優秀な作品に対して、賞状、賞品を授与して、文芸作品の創作意欲の高揚に協力できた。	
芸術鑑賞会の充実	今年の芸術鑑賞テーマを「演劇」とし、東京演劇アンサンブルによる『音楽劇～消えた海賊～』を鑑賞した。図書委員が係員として活躍し、スムーズに鑑賞会が実施できた。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
広報活動	本校の特色や教育方針・目的が理解しやすく、できるだけ見てもらえるようなインパクトのある学校案内の作成に努力してきた。 今回、オープンスクールへの参加者数を増加させるためインパクトのあるTVCMを作成した。オープンスクールでは、教員による説明を減らし、生徒による説明や発表の時間を増やした。その結果、過去最多の2,183名の参加者となった。 年3回広報誌を発行し、県内各中学校及び関係各機関に送り、本校の教育活動など紹介し理解を深めてもらう手段として大いに活用している。本校のPR活動に欠かせないものとなっている。	A
生徒募集活動	本校がある地区において、今年度の受験生が昨年度と比べると300名程減少する中で、オープンスクールの参加者を増やし、推薦入学試験の志願者数も99名も増加した。6月に県内各中学校への学校訪問を全教職員で実施し、本校のPR活動を展開してきた。11月には拠点校を絞り更にPRをした。全教職員の意識の向上にもつながり良い結果が出ていると思われる。また、各中学校との情報交換などを通して要望事項や改善点など貴重な意見が多く出され、今後の活動に活かしていきたいと考えている。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
個々の教職員の課題把握	校務運営委員会及び教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取組み、会議進行等に工夫をするなどにより、一定の効果があった。	B
環境問題への取組	冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電に取り組み、照明及びエアコンの消し忘れ等の確認をこれまで通り行った。ただし、生徒に対する環境への積極的な取組みまで結びつかなかった。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標の取組結果

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
新校舎建設に係る財源確保	新校舎建設に向け、今後は毎年1億円の借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には1億円の返済分を除いた上で作成していくことを前提とするとともに、将来の建設費への補填等を目的に、平成28年度学費から施設設備資金の増額(20,000円)を決定した。 財源確保対策として、平成30年度は最低でも募集定員450名の入学者の確保が必要となるが、オープンスクールや入試説明会の積極的な開催等により、平成30年度志願者は100名程度の増加となった。特に専願者が32名増加した。	B

新校舎建設計画実現に向けての対応	本校の新校舎建設については、大学本学の重要整備計画として平成 26 年 11 月 25 日に大学本部にて承認されている。今年度は設計の実施に向けて、教職員会議において、重要整備計画申請時の基本構想スケジュールにある設計の実施についてこれを諮り、承認されており、平成 30 年度の実施スケジュールについて現在調整を行っている。校庭の人工芝化は、平成 30 年度 3 月には完成する。	A
------------------	--	---

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

平成 30 年度の取組目標及び方策

教育活動

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	工学部との高大接続教育を重視し、現在行われている内容よりも更に踏み込んで、低学年より継続的に実施できるようにする。工学部と検討委員会で協議していく。	平成 30 年度に方針を定め、できるものは、年度内中から実施をしていく。
I C Tを利用したアクティブ・ラーニング教育の実施に向けた取組	ipad を利用した授業が、授業アンケートで非常に好評なため、この普及に取り組む。導入したクラスでの研究・公開授業を学期ごとに行うとともに外部の研究會にも参加する。	平成 32 年度には全学に ipad を導入する予定である。それに向けて昨年よりⅡコースに先行導入している。全教員にも次年度までには ipad を支給し全学導入に備えていく。
生徒が主体的に学習に取り組める環境の充実	部活動との両立が問題になっているため、生徒会と連携して部活動の見直しを行う。また、シラバスに教科だけではなく、学校・学年行事についても記載するなど、さらなる充実に取り組む。	部活動の見直しについては、平成 31 年度に実施できるように準備していく。 シラバスについては、「学校シラバス」として、平成 30 年度より記載していく。

学校生活への配慮

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	いじめ対策基本方針の改定	平成 29 年度末、生活指導部から改定の原案を教育相談委員会に提出
	アンケートの見直し・事後の担任、委員会関係者との連携を密にする。	平成 30 年度当初、教育相談委員会で決定後、関係各位への周知を行う。
生徒に合わせた指導の充実	自己有用・自己肯定感を育む取組みの充実を図る。	サンクスカードの導入 生徒会執行部から生徒に渡す 生活指導部から教職員に渡す。
	教育相談室（あおぞら教室）と連携し、多様化する生徒理解問題行動の未然防止の強化を図る。	週 1 回の会議への積極的参加
学校生活へも配慮	新校舎建設に伴う、校内における生徒の心の安定化を図る。 (新校舎建設に伴い生徒の校則、ルールを軽んじている言動への対応)	学年会との連携強化・情報の共有化を図るため、学年主任との連絡を強化する。(指導部だより等での周知、1～2 か月ごとの発行)

	災害・事件・事故に対する組織立った対応の強化を図る。	発生時のマニュアルの周知を今までより強化する。 （「指導部便り」を利用して）
--	----------------------------	---

課外活動

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
部活動等，課外活動の活発化と指導体制の改善	現在存続する部活動数の見直しを行うと同時に，練習時間，指導体制の見直しも行い，勉強との両立ができる環境づくりを行う。また，強化する部活動を明確にすることで，さらなる部活動の活性化につなげる。	「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ庁）を参考に，平成 29 年度中に「部活動の見直しに関する原案」を作成し，提示する。平成 30 年度 4 月に見直しを実施し，平成 31 年 4 月より導入する。
生徒会活動の活性化	生徒会執行部が中心となり，アカシヤ祭や予餞会などの学校行事を更に活性化し，生徒の積極的な取り組みを促す。また，生徒会執行部独自の取り組みである目安箱，あいさつ運動，生徒会新聞を更に充実させていく。	新校舎建設に伴う校舎使用制限や新校舎移行に伴うアカシヤ祭等の見直しを随時行う。また，生徒会執行部独自の取り組みについても，週 1 回行っている教員と生徒のミーティングを通して，随時検討していく。

進路指導

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学付属校推薦に向けた校内選考の仕組みを見直す。 より多くの生徒が基礎学力選抜方式と付属特別選抜方式を利用することにより，日本大学に進学することを目指す。そのため，現在の「評定のための学び」ではなく，「基礎学力と演習力の定着のための学び」を推進する。	①日程の改善（通年） ②基礎学力到達度テストの成績改善（随時） ③学びの目的の見直し（教務部との連携）（随時）
生徒が主体的にキャリアビジョン構築に取り組む姿勢を育み，広い視野からの進路決定を目指す。	① 1 学年：「キャリア自由研究」と「自由研究プレゼン大会」で，各生徒が社会の様々な領域についてインタビューする機会をつくる。 ② 2 学年：「日本大学各学部ガイダンス」では，例年の受動的に説明を聴く形式ではなく，生徒が主体的にガイダンスに取り組み，各学問領域に対する興味関心を深める機会とする。	①「キャリア自由研究」 →夏期休業期間 「自由研究プレゼン大会」 →10月17日 ②「学問分野ガイダンス」 →5月30日 「日本大学各学部ガイダンス」 →6月27日
各種模試・検定試験と進路ガイダンスを結び付けて，「力」をつけた上での進路決定を目指す。	各種模試や検定試験と進路ガイダンスの関連性を高め，基礎学力を含めた幅広い教養を涵養する指導を確立する。確かな「学力」や「キャリア選択に関わる諸能力」を身に付けた上で進路を選択，決定する態度を育む。	各種模試（随時） 進路ガイダンス（通年）

保健衛生

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
教育相談体制の充実	相談室内の環境の改善を行う。また、相談室と担任・保健室・生活指導部との連携を強化し、複数教員でのサポートを展開していく。	通年
性に対する指導	1年生への講演会を実施するとともに、学年ごとに男子集会・女子集会を実施し指導を行う。教員間での指導方針の共通理解を図る。	通年

図書

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
図書室利用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫の設置や新着図書の案内を通して図書室利用者の増加を目指す。 ・文芸コンクールへの協力をする。 ・「ビブリオバトル」や「アカシヤ祭」への積極的な参加や、「読み聞かせ会」などの開催を促す。 	通年 ・新刊案内・「図書だより」の発行 ・読書案内の掲示 ・学級文庫の管理 7月 図書委員会としての「アカシヤ祭」への参加 11月 ビブリオバトル福島県大会出場
芸術鑑賞会の充実	音楽部門から「MALTA Hit&Run スペシャルライブ」を鑑賞予定である。鑑賞会の実施に向けて立案と準備を充実させる。	芸術鑑賞会 11月22日（木）2回公演

広報

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
広報活動の充実	オープンスクール・入試説明会の充実及び参加者の増加策について、早期のCM放映・ちらし配布などにより、イベント開催の認知度を高めるなど、昨年度の反省を生かしさらなる充実を図る。	通年
生徒募集活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問の充実を図るとともに、訪問する教員の面談スキルの向上を目指す。 ・保護者会・報道機関への積極的な働きかけを行い、本校に対して便宜を図ってくれる保護者会・報道機関などを増加させる。 ・受験生確保が入学者につながることから、入試改革を行い、受験生確保に努める。 	通年

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
個々の教職員の課題把握	引き続き、校務運営委員会及び教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取組み、併せて、別の方法によって教職員の課題が把握できないか、今後検討する。	4月～
環境問題への取組	冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定した節電に取り組み、照明及びエアコンの消し忘れ等の確認を継続して行い、注意喚起を行うことで、環境への取組みに結びつくよう啓発に努める。	通年
授業改善のための取組	生徒による授業評価アンケートを実施し、その結果に応じて、施設設備や教員に対する必要と思われる指導を行う。	4月～
いじめ防止のための取組（組織の設置、研修・啓発の実施、いじめの早期発見のための取組、重大事態への対応等）	「いじめ対策、体罰防止・教育相談委員会」を立ち上げ、学内におけるいじめや体罰等の案件について、情報収集を迅速に行い、対応を円滑に行えるよう周知を行うとともに、研修会やアンケートを通じた防止対策を講じる。	4月～

中長期的目標及び方策

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
新校舎建設に係る財源確保	新校舎建設に向け、今後は毎年1億円の借入金返済を確実に実行するため、予算作成時には1億円の返済分を除いた上で作成していくことを前提とするとともに、財源確保対策として、様々な取り組みを実践していくことで、志願者の確保に努める。	平成30年4月～
新校舎建設計画実現に向けての対応	本校の新校舎建設に当たり、基本設計を終え、実施設計が円滑に進むよう、関係各部署との密接な連携を図りつつ、新校舎建設に向けた対応に努める。	平成30年4月～